『龍衣』（りゅうい）

の生薬４種類をご紹介します

龍衣（蛇蛻・ヘビ抜け殻）

ヘビは、脱皮することから‘死と再生・若返り’を連想させ、生命力の象徴と崇拝される。ギリシャ神話の「杖に絡むヘビ」は医学と薬学の象徴として広く用いられ、WHO（世界保健機関）のロゴマークにもなっている。

ヘビ（抜け殻を含む）は、数千年前から薬用として、頑固な痛み、慢性の皮膚炎や手足の痺れ、痙攣などの病症を治療する名薬とされてきた。駆風・鎮痛・鎮痙・消炎・痒み止めの薬効が最も優れている。

ビャッキョウサン

白僵蚕（びゃっきょうさん）は白僵菌に感染し、白く硬直して死んだ蚕の幼虫。近年は白僵蛹を代用することもある。

薬理作用には、解熱・鎮痙・鎮痛・化痰・催眠などがあり、脳卒中による言語障害・半身不随、または顔面神経麻痺にもよく用いられている。

これらの鎮痛・鎮痙・抗炎症・解毒の生薬の組み合わせで、更なる相乗効果を期待する。

おすすめ：

- ●慢性腰痛、頚椎症、肩こり、関節痛
- ●ヘルペス神経痛、顔面神経麻痺、坐骨神経痛
- ●手足の痺れと震え、半身不随
- ●慢性皮膚炎、痒み、皮膚ただれ
- ●がんの痛み、抗がん剤副作用の痛み

金銀花

金銀花（きんぎんか）という名の由来は、花の咲き始めは白い色、2～3日経つと黄色に、やがて白色と黄色が入り乱れて咲くことから。別名は忍冬、和名は吸い葛、スイカズラ科の常緑つる性木本植物である。

金銀花の蔓（忍冬藤）は、清熱解毒と疏風通絡の薬効があり、化膿性皮膚疾患・筋肉や関節の痛みなどの治療には要薬である。

灯盞花

灯盞花（とうさんか）は、灯盞細辛という別名もあり、菊科の多年草で、祛風散寒・活血舒筋・通絡止痛の薬効を持つ。

近年の研究では、灯盞花には、脳梗塞・心筋梗塞の治療、さらに脳卒中の後遺症に対して「血管の詰まりを取り除き、血行を改善する」などの効果があると言われる。

生薬シリーズ